

榛原総合病院 だより 12

2022

第206号

●●●●●●●●●● 年末年始の診療体制 ●●●●●●●●●●

12月30日(金)は、内科・呼吸器内科・外科・小児科・皮膚科のみ診療を行います。その他の科は、休診となります。また、12月31日(土)から令和5年1月3日(火)までは、全科休診(小児科除く)となります。新年は1月4日(水)から通常診療を開始します。

休診日は救急対応となりますが、医師交代制のため各科の専門医師ではない場合がありますのでご了承ください。

<小児科救急> 12/31~1/3 受付：午前9時~11時/午後1時~3時 医師交代制



●●●●●●●●●● 大動脈瘤を見つけませんか? ●●●●●●●●●●

—大動脈瘤の早期発見、早期治療のための検査のご案内—

心臓血管外科 植木 力



大動脈瘤は胸やお腹の大動脈がこぶ状に拡大する病気です。症状がでないことが多いので患者さんがご自身で気づくことは難しいです。しかし、大動脈瘤に気づかずに生活していると、ある日突然動脈瘤が破裂してしまい、急激な胸やお腹の痛みを引き起こしたり、場合によっては突然死の原因になったりすることがあります。

動脈瘤は一度破裂してしまうと救命するのが非常に難しい病気です。

そのため破裂を起こす前に大動脈瘤を発見することが重要になります。「自分には関係ない」と感じる方が多いかと思いますが、日本で60歳以上の高血圧がある患者さんに腹部超音波検査で大動脈瘤の検査を行ったところ、腹部の大動脈瘤が見つかる確率は60歳代男性で1.6%、女性で0.6%、70歳代男性で5.7%、女性で1.3%、80歳代男性で9.2%、女性で5.7%と、男性や高齢の女性ではかなりの頻度で大動脈瘤が見つかることが知られています。

これまでの研究から次のような方は大動脈瘤が見つかることが多いとされています。

- 男性 ○年齢(60歳以上) ○喫煙歴 ○高血圧
- ご家族が大動脈瘤と診断されたことがある方

現在、日本循環器学会のガイドラインでは、**①65歳以上の男性、②65歳以上の喫煙女性、③ご家族が大動脈瘤と診断されたことがある方には、超音波検査による動脈瘤の早期発見を積極的に行うことが推奨されています。**



超音波検査は放射線の被ばくもない検査であり、安心して受けることができます。また動脈瘤が見つかった場合には最近ではステントグラフト治療という低侵襲なカテーテル治療を行って破裂を予防することができます。早期発見・早期治療をこの地域で広めていくことで大動脈瘤の破裂によって突然死される方が少しでも減ることが私たちの願いです。

いよいよ冬を迎え、血圧が変動しやすく心臓や大動脈の病気が増えてくる季節になってきました。この機会に大動脈瘤の検査を希望される方はお気軽に当院の大動脈瘤・ステントグラフト外来までお問合せください。「大動脈瘤の検査を希望」と伝えていただければ外来で大動脈瘤の検査を実施して結果をご説明させていただきます。 ※外来診療日：毎週火曜日

<問合せ先> 心臓病センター 電話 0548-22-1131(代)

<おねがい> 受診の際には、必ず『おくすり手帳』をご持参ください。